

平成30年第5回
産業建設常任委員会

所管事務調査報告

期 日：平成30年4月17日(火)
午前10時00分～午前11時30分

調査内容：産業振興課所管事務調査
(1) くにみ農業ビジネス訓練所について
①現地視察
②概要説明

出席者：産業建設常任委員4人、傍聴者3人

説明者：産業振興課長、主幹兼産業振興係長、
課長補佐兼農地整備係長、産業振興係主査

国見町議会

ページ

| | | |
|-------------|-----------|---|
| 渡 辺 勝 弘 委員長 | ・ ・ ・ ・ ・ | 2 |
| 阿 部 泰 藏 委員 | ・ ・ ・ ・ ・ | 3 |
| 井 砂 善 榮 委員 | ・ ・ ・ ・ ・ | 4 |
| 村 上 一 委員 | ・ ・ ・ ・ ・ | 5 |

平成30年第5回産業建設常任委員会 産業振興課所管事務調査報告書

平成30年4月20日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 渡邊 勝弘

【調査内容】 産業振興課所管事務調査

(1) くにみ農業ビジネス訓練所の現地視察

(2) 概要説明

くにみ農業ビジネス訓練所において、平面図の説明を受け、研修棟と格納庫はのべ面積191㎡、養液栽培施設の大型鉄骨ハウス1棟、整備費3,540万円、ビニールハウスが4棟、露地農場として900㎡あり最後に訓練棟内部の説明を受ける。

【感想】

養液栽培施設では、水耕栽培として養液および給水をまわした所に約5センチの培土層を敷き詰めている作業を視察し、説明を受けた。給水として水を巡回して養液は管理をして加えるとのことであり、培土は収穫時ごとに変えるのではなく状況により交換していくこととしている。水耕栽培として様々な施設を視察してきたが、養液を含ませた水を循環して水耕栽培をしていた施設があった。培土を交換せず土も付着しないことから、設備投資が少なかったが、どちらがより良い生産物ができるのか注視したい。併せて、培土交換があれば様々な作業経費がかかるのではないかと不安がある。また、生産物としてトマトが生産性及び失敗が少ない点で決定していたが、トマトだけにこだわらず今後はビジネス訓練と言うことであれば、様々な品種も検討すべきではないかと考える。

ビジネス訓練としての施設であり商売として利益を追求する場所ではなく、農家の皆さんが今後も安定した農業経営をしていただくための研修施設である。

しかし、利益を追求すべきではないが、今後も掛かるであろうランニングコスト分は利益で賄えるよう考えるべきである。併せて、長期研修募集を行っているが、特に新規就農希望者がいないことは心配な点である。更なる募集PRが必要ではないかと強く要望する。

新規就農者が増え、明るい農業として発展できる訓練所であることを期待する施設である。

以上

平成30年第5回産業建設常任委員会 産業振興課所管事務調査報告書

平成30年4月20日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 阿部泰蔵

【調査内容】 産業振興課所管事務調査

(1) くにみ農業ビジネス訓練所の現地視察

(2) 概要説明

- ・施設では5人を雇用し、ローテーションを組み対応する。
- ・約10アールのミニトマトの養液栽培施設では、苗の植え付け準備が進められている。この施設からの1年間生産量は、約13tの予定である。
また、大型養液栽培施設の設置費用は3,540万円である。

(施設現場で私の質問)

Q. 経費の回収について

A. 減価償却はむずかしいがランニングコストは対応できると思う。

Q. 生産物を高値で販売するにはどうするべきか。

A. 地域の生産量の確保と年間を通し出荷体制を作りブランド化を図ること。

【ビニールハウスの状況】

1棟当たり1.62アールのビニールハウスが4棟整備。

No.1にはトウモロコシの苗が植えてあった。No.2には枝豆が植えてあった。

また、No.3にはナス、No.4にはキュウリを植える予定である。

【露地農場 900㎡】

露地農場では、ジャガイモ、トウモロコシ、エダマメなどが植えてあり、これからサツマイモ、ダイコンなどを植えて行く予定である。

【研修棟で説明と質疑、応答】

Q. 研修農場の土壌は水田の跡地なので野菜土壌に適さないと思うが。

A. 今後、数年をかけて土壌改良に努める考えである。

【農業ビジネス訓練所の申し込み状況】

(長期研修) 現在申し込みがなく、近隣市町へ案内の配布やネット配信を実施。

(短期研修) 土壌肥料12名、野菜の多品目栽培20名の申込み予定。

【感想】 本町は、米と果物を基幹産業とした農業の町である。しかし、全国的に1次産業は衰退化した状況にある。この状況を改革することが町の責務であり、農業ビジネス訓練所は、是非とも成功させなければならないと思う。

以上

平成30年第5回産業建設常任委員会 産業振興課所管事務調査報告書

平成30年4月20日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 井砂 善栄

【調査内容】 産業振興課所管事務調査

(1) くにみ農業ビジネス訓練所の現地視察

(2) 概要説明

- 研修室 130 m² 1棟
- 格納庫 61 m² 1棟
- 鉄骨ハウス 1,000 m² 全天候型、自動コントロール制御方式
- パイプビニールトンネル 660 m² 4棟
- 露地栽培 900 m²
- 鉄骨ハウス整備費 3,540 万円

○鉄骨ハウス栽培品目 トマト

トマト 早生種品(千果) 普通種品(フルティカ)

○パイプビニールハウス栽培品目

トウモロコシ→さつまいも→大根→葉物

○現在の研修生希望者数

- 1) 長期研修 なし
- 2) 短期研修 32名
 - 〔 野菜・土壌肥料 12名
 - 〔 多品目栽培 20名
- 3) 体験研修 1組

【感想】

我が国見町に待望の最も難しい第1次産業での農業政策の一環である農業研修機関の門戸が開き、後継者、担い手育成に一町民として今後大いに期待するものと強く受け止めるものである。

以上

平成30年第5回産業建設常任委員会 産業振興課所管事務調査報告書

平成30年4月20日

国見町議会議長 東海林一樹 様

国見町議会議員 村上 一

【調査内容】 産業振興課所管事務調査

- (1) くにみ農業ビジネス訓練所の現地視察
- (2) 概要説明

現在、養液栽培施設(ハウス)ではベットに培土を入れる作業を行っており、明日トマトの苗が入る予定。トマトの種類は、中玉トマト(品種 フルティカ)ミニトマト(品種 千果)で、年間13tの収穫目標である。周年栽培は冬の日照不足で栽培が難しいとのことだが、このハウスは温度管理、換気、養液管理は自動で管理されている施設である。

その後、ビニールハウスを視察。ハウス内には、とうもろこしと枝豆が植えられており、5月中旬に収穫予定である。

露地圃場にはジャガイモを植えたが、土壌が粘土質のため苦勞したそうである。今後、土壌改良材や堆肥等を投入していく計画である。

研修棟及び格納庫には、トラクター・管理機・消毒機械・トマト選果機・各資材等が配備されており、研修施設が完備されている。ビジネス訓練所では研修者の募集を行っている。現在のところ、短期研修32名体験研修1組の申込みがあるが、長期研修者の申込みはない。今後、随時募集すること。

【感想】

トマトの周年栽培はこの地方ではリスクが伴うが、是非とも栽培技術の確立を図ってもらいたい。今後、養液栽培にはイチゴやメロン等の導入も考え、またビニールハウスにはキュウリ等の導入をし、稼げる農業を目指し、野菜栽培の基礎を学ぶ研修施設にしていく事が必要だと思う。

以上